

消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事例概要について】



1. 事故・ヒヤリハットの別	ヒヤリ
2. 体験した事例の名称	有毒ガス（硫化水素）発生現場（浴室内）での誤った現場活動
3. 体験した事例の中心的要素	有毒ガス自殺との情報で消防が駆けつけ、先着のポンプ隊と救急隊の2隊が、玄関に練炭が数個あったため練炭自殺と思い込み、異臭がなかったせいか呼吸器も装着せず建物内に3名進入し検索を実施していた。その内の2名が、施錠されていた脱衣所を人力で開放し、更に施錠されていた浴室も人力で開放すると、浴室内に硫化水素が発生しているのに気付いたため、直ちに浴室ドアを閉め、建物外に避難したが、残り1名の隊員は建物内を検索中で、建物内に取り残された状態であった。
4. 体験した事例の原因・理由	活動に至るまでの安全管理がなされていない。 隊員間の連携が全く取れていない。

【体験した事例の直接的な原因について】



1. 体験した事例の直接的な原因	行動の実行に問題があった。
------------------	---------------

【体験した事例について】



1. 発生日時	平成 20 年 9 月 12 日 午後 4 時頃
2. 発生した当時の天候	晴
3. 発生した活動現場	屋内：浴室
4. 体験した事例の種類	他人が、回答者を負傷させた。
5. 事故の程度（ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度）	軽傷の怪我をしていた（させていた）だろう。
6. どのようなことが起きたのか（起きそうになったのか）	有害物と接触、
7. 事例体験時の活動	救助現場活動初期、 []
8. （7の活動中） どのような作業中に発生したか	進入・退出、人命検索・救出、
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した。

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）

○当事者A	年齢[29]歳、勤続年数[9]年、現場経験年数[5]年、階級[消防士長]、同様の活動[数年に1度程度]、任務[機関員]
○当事者B	年齢[26]歳、勤続年数[6]年、現場経験年数[6]年、階級[消防副士長]、同様の活動[数年に1度程度]、任務[機関員]
○当事者C	年齢[25]歳、勤続年数[6]年、現場経験年数[6]年、階級[消防副士長]、同様の活動[数年に1度程度]、任務[隊員]
その他 (当事者が4人以上の場合)	

11. 事例発生の経過。

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過1	当事者A・B・C	建物周囲に異臭等なしを確認。	
経過2	当事者A・B・C	玄関ドアを開けると、玄関に練炭を発見。	
経過3	当事者A・B・C	練炭使用形跡ないため、装備なしで進入。	
経過4	当事者A・B・C	それぞれ各部屋内を検索実施。	
経過5	当事者A・B	施錠されている脱衣所を確認するため開放。	
経過6	当事者A・B	施錠されている浴室を確認するため開放。	
経過7	当事者A・B	硫化水素発生を確認。	
経過8	当事者A・B	慌てて浴室ドアを閉め建物外に脱出。	
経過9	当事者A・B	玄関ドアも閉める。	
経過10	当事者C	状況わからず建物内を検索中。	

【その事例発生時の状況について】



- 事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思いか？
 ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思いか？

たまたま、負傷事故にならなかった。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	いいえ
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	いいえ
・活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	はい

d. 心身の不調があった

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった（寒かった）。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	はい
・指示内容に誤り・偏りがあった。	はい
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

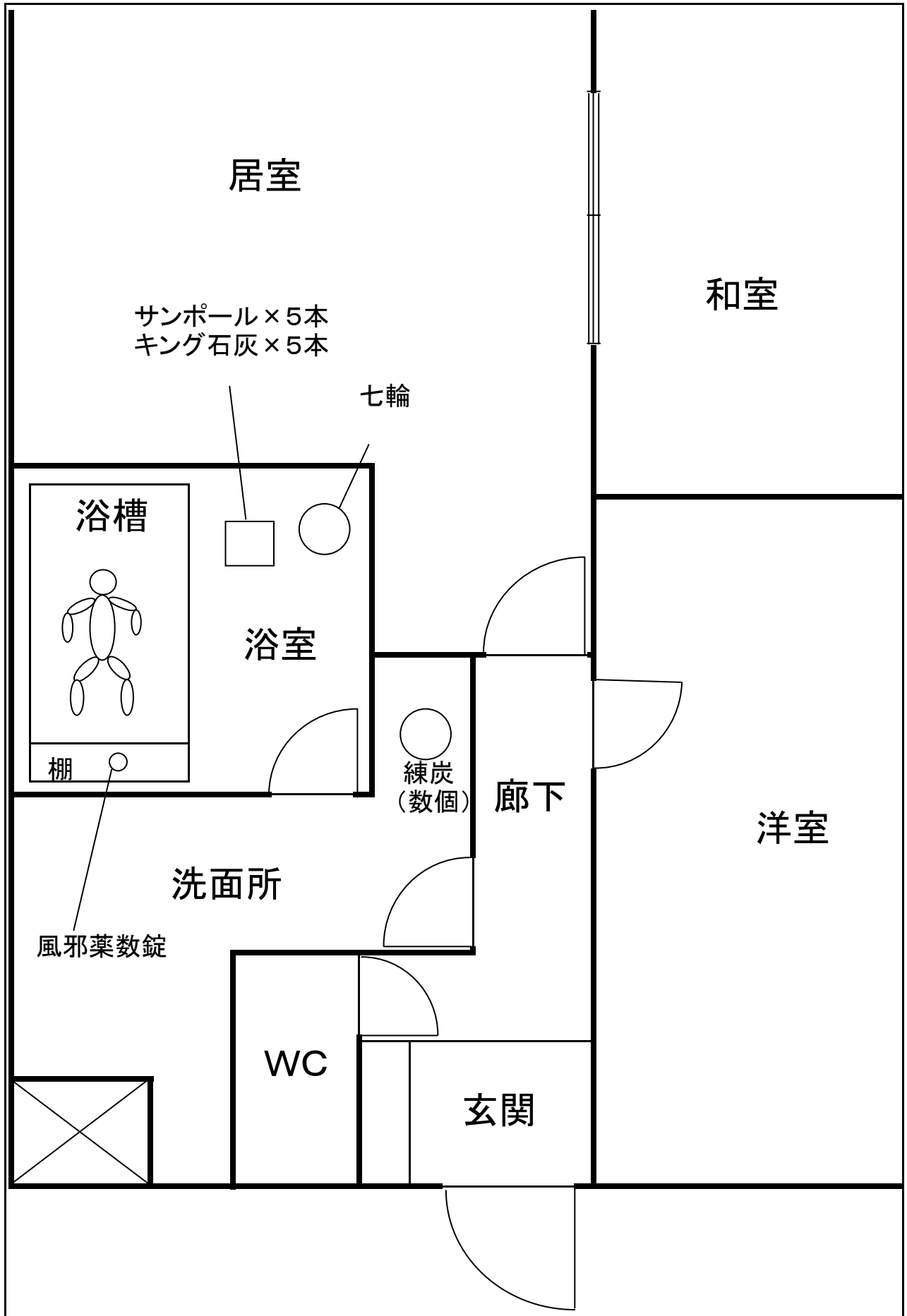
k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	はい
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

はい：活動初期に練炭を発見していたため練炭自殺と思い込み、その他（硫化水素）の対応は全く考えていなかったこと。



・発生日時 :平成20年9月12日 午後16時頃

経過	現場の状況	隊員A	隊員B	隊員C	備考
		機関員／消防士長 ・年齢 29 歳 ・勤続 9 年 ・現場 5 年 ・同様の活動:数年に1度程度	機関員／消防副士長 ・年齢 26 歳 ・勤続 6 年 ・現場 6 年 ・同様の活動:数年に1度程度	隊員／消防士長 ・年齢 25 歳 ・勤続 6 年 ・現場 6 年 ・同様の活動:数年に1度程度	
出動指令	有毒ガス自殺救急指令				救急出動
出動途上					
現場到着		現場到着(ポンプ隊先着)			
活動初期		建物周囲に異臭等なしを確認			
活動初期		玄関に練炭数個を発見			
	練炭による異臭なし	練炭の使用形跡ないことを確認			異臭がないため、呼吸器は着装せず
活動初期		装備なしで進入			呼吸器未装着で安全管理がなされない状態で活動開始
活動初期		それぞれ各部屋内を検索実施			
活動初期		施錠されている脱衣所・浴室を確認のため、人力で開放	隊員A・Bとは別途検索実施		
	浴室内で硫化水素発生 硫化水素中毒の危険あり	浴室内に硫化水素発生を確認			
活動初期		慌てて浴室ドアを閉め建物外に脱出、玄関ドアも閉める			呼吸器未装着であったため緊急退避
活動後期			(硫化水素発生の状況わからず)建物内を検索中	隊員A・Bから隊員Cへの連絡はなかった。連携がまったく取れていない	

◎ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？
 ○直接的な原因:行動の実行に問題があった。
 ・たまたま、負傷事故にならなかった。

◎ヒヤリハットが起きた背後要因

- (心理・体調について)
 - ・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。
 - ・活動に対する経験が不足していた。
- (指揮・管理について)
 - ・活動指示が得られなかった。(無線が通じない等。)
 - ・指示内容に誤り・偏りがあった。
 - ・隊員の連携が不十分だった。
- (その他)
 - ・活動初期に練炭を発見していたため練炭自殺と思い込み、その他(硫化水素)の対応は全く考えていなかったこと。